

新年おめでとうございます

住 職 笠原建道

『春初御消息』(御書・一五八八頁)

春の初の御悦び、木に花のさくがごとく、山に草の生ひ出づるがごとしと我も人も悦び入って候。

宗祖日蓮大聖人様が、お正月の御供養をされた南条時光に宛てた御文です。弘安五年一月二十日、大聖人様六十一歳、時光二十四歳のお正月です。

この年の十月十三日に大聖人様は御入滅遊ばされます。

南条時光が、初春のお悦びを申し上げたことを、大聖人様は、「季節が春になって、木に花が咲き、山野に草が芽を出したような、明るくあたたかい心もちになりました。私が嬉しく思うのは勿論ですが、周りの者も悦んでおります」と述べられます。

佛乗寺の檀信徒御一同も、初春のお悦びを大聖人様に申し上げました。年が変わって早々に、あるいは本日の御報恩御講で、とそれぞれですが、初春のお悦びにかわりはありません。

この御書のように、平成の皆さまの貴い信心を、大聖人様が御嘉賞・お悦び下さっていることと拝察申し上げます。

### 《現世の安穩を願う折伏》

昨年は一八六名以上の方を、新たに大聖人様の御信徒として導いてまいりましょう、という願いを立て、一九二名の方々を導くことが叶いました。これは、皆さまが御法主日如上人の御指南を心に染め、広布を願い唱題を重ねているからに他なりません。

『如説修行抄』には、

「天下万民諸乗一仏乗と成りて妙法独りはむ昌せん時」

(御書・六七頁)

とありますように、世界中の人々が、一人残らず南無妙法蓮華經と御題目を唱えるようになった時が広布の時であり、私たち目指すものです。また、

「吹く風枝をならさず、雨土くれをくだかず」

(同)と示されますように、風は吹いても梢がそよぐていどの、雨が降っても、洪水がおこるような豪雨ではなく、「甘雨」であり「ほそき雨」なのです。

このように、私たちはこころ豊かな暮らしを営むことができるようになる時を願っての行動が「折伏」です。

## 《豊かな心を育む折伏》

今年の願いは、二〇二名の方を新たに大聖人様の御信徒に導くことです。簡単なことではありませんが、強く願ってゆけば叶えられます。強く願う心が豊かなことです。何故ならば、我が事の願いではなく、他の人たちの幸せを願うのですから、これほど崇高なことはありません。互いに助け合って、声を掛け合って、理想に向かって一步前に進めるようになりましょう。

## 《育成は深く相手を思う心の働き》

「折伏育成」と今年は銘打たれております。大聖人様の御信徒になられた方々が、勤行唱題をできるように、本山に御登山ができるように、佛乗寺にお参りができるように、と手を差しのべ共に育つのが「育成」です。難しいことはありません。「常に声をかける」ことでできることです。毎日会うことは難しいことです。毎日、電話をしたりメールをすることは少し易しいことです。難しいと思うのは、相手に嫌がられるかも知れない、という勇気が少し足りないからかも知れません。それは、相手を思う心が少し足りないからかも知れません。

大聖人様が、四条金吾に与えた御言葉に、

「法華經の信心つよき故に難なく存命せさせ給ふ。目出たし目出たし」

(御書・一四〇七頁)

というのがあります。これは、四条金吾が、御本尊様を強く信じ、御本尊様の功德を確信して、相手のことを思い、行動をおこしたことで、難を乗り越えて命をのばしたことを悦ばれたものです。

相手のことを思う、つまり、私たちの御本尊様のお力を信じて、その人のために教えるという強い心は、必ず相手に通じるのであり、そのことによって私たち自身にも功德を受けられることを四条金吾を通して教えて下さっているのです。

本年も、日蓮大聖人様の教えを世界に流布するために、御法主日如上人の御指南のままに折伏に励み、一生成仏の功德を承けてまいりましょう。

大寒を目前にし寒い日が続きます。風邪など召されることのなきようご留意下さい。寒いから、インフルエンザが流行っているから、と家の中にももって、テレビ番をしていると、脳も身体も不活発に馴染んでしまい、春になってもその状態が続くことを案じます。

私たちは大聖人様の子供です。「子供は風の子」です。元気に、明るく楽しくこころ豊かに外に出ましょう。私たちには御信心があります。御本尊様が見守って下さっております。安心して、自信を持って身心を活性化してまいろうではありませんか。

檀信徒御一同の益々の御精進をお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします